

KSKR

No.244

2018
Nov.

11

奈良県自閉症協会 NEWS

きずな

The Kizuna

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

発行人:

関西障害者定期刊行物協会

編集人: 奈良県自閉症協会

支部長&事務局: 河村舟二

〒639-1005

大和郡山市矢田山町 84-10

購読料1部 100円

会員は会費に含まれています。

奈良県自閉症協会のメーリングリスト (ML) に登録されている方にはすでにお知らせしていますように、この2018年11月11日から「あさイチ」などをはじめNHKのテレビ・ラジオ放送を通じて発達障害に関する番組が一挙放送されました (総合テレビ・Eテレ・ラジオ第一で20番組ありました)。とくに、11月19日 (日) からの一週間は、集中的な番組が組まれていました。このように、いま日本において、これまでとは違った、自閉症・発達障害に対する理解啓発活動がマスコミをはじめ強化されてきています。私たち奈良県自閉症協会も、世界自閉症啓発デーの啓発ウオークや、ブルーライトアップの取り組みをはじめ、HAHAHAキャラバン隊など啓発活動を続けてきています。その結果か、県民の自閉症・発達障害への関心が近年、高まって来ているように思います。しかし一口に発達障害といっても、個々それぞれの行動の特

徴や、個性が違うので、マスコミ報道が扱ったようなタイプの人通りの、行動タイプの人だけが自閉症の特色だと思われる傾向があります。私たちはまず、各、自分の地域で、自分の子どものありのままの存在を知ってもらい、住民との交流やかかわりの中で自閉症を理解してもらい、地域支援がなされるようになることが大切になってくると思います。また、私たち当事者・親家族が、自閉症について、今以上に、正しく一般の人に説明できる力を付けて行くことも重要になって来ると思っています。

話は変わりますが2018年11月17日に河村は中国の自閉症関係者との交流に西安に行ってきました。今回は中国西安自閉症児教育福祉学校である拉拉手 (らーらーしゅ) というところでした。日本の取り組みを知りたいということでしたので、今回、日中美谷福祉協会理事で「夢の風」施設長の村林秀紀先生と、同

施設の職員でアスペのお子さんを持つ上田啄美先生と私河村がそれぞれ日頃の活動の内容を話してきました。100名近い拉拉手の教師、家族会、当事者、西安市自閉症協会学校の先生、西安市の政府、学校関係者が来ておられたそうです。私はここで、親のつながりの大切さや一般市民への啓発の大切さ、協力支援の大切さなどを動画など映像を中心に話してきました。中国と日本では教育体制が異なりますが、親の思いは皆同じです。ちなみに拉拉手 (らーらーしゅ) の意味は手を手を取り合うという意味で、奈良県自閉症協会の「絆」や手をつなぐ育成会の歌の歌詞に出てくる「♪手と手をつなぐ♪母♪われら」のことだそうです。これからも交流をお願いしますとのことでした。

みなさまのご協力をお願いします。

(河村)

よ〜く考えると

みなさま

11月12日 (月) 夜に、映画『MMR ワクチン告発』の一回きりの上映会が旧日比谷図書館であり、観ました。以前にワクチンに防腐剤として含まれるチメロサルが自閉症の原因になるという説がありましたが、その

話ではありません。

新三種混合ワクチン (MMR ワクチン) で自閉症が増えている、それをアメリカ疾病予防管理センター (CDC) が隠ぺいしたいというものです。

映画の最後で、単独接種にすべきだと主張していました。(三種同時でなければ発症していないとなっていた) 配給会社の自らの判断で公開2

週間を切った急な公開中止。

経緯は下記。

<http://unitedpeople.jp/vaxxed/japan>

勇気ある判断だったと思います。

映画配給会社が直前に配給中止を判断した理由は日本でのワクチンの実施状況でした。

日本では、同時接種を1994年から

していないのに自閉症の人は減ってはいないからです。

事実と合わない、映画監督が間違っていることを悟ったのです。

この映画の問題に関してはこれが詳しいです。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/MMR%E3%83%AF%E3%82%AF%E3%83%81%E3%83%B3%E5%91%8A%E7%99%BA>

観た印象は、一般の方は、間違った内容だとは気づけないと思います。信じると思います。

MMR ワクチン接種後に発熱し幼児が立てなくなったり、目がひっくり返ったりする映像がたくさんありました。親はワクチンで自閉症になったと思っていました。配給されなくて良かったです。

日本自閉症協会副会長 今井 / マスコミ担当

映画『MMR ワクチン告発』 公開中止のお知らせ

映画『MMR ワクチン告発』（原題：Vaxxed）日本配給会社のユナイテッドピープル株式会社より、本作の劇場公開中止の発表をさせていただきます。本作の公開を楽しみにされていた皆様、プレス関係者の皆様並びに劇場関係者の皆様には公開2週間を切った急な公開中止となりご迷惑をおかけして誠に申し訳ございません。チケットをすでにご購入の皆様におかれましては、劇場窓口でご購入のチケットは劇場にて、メイジャー様でオンライン購入された方はメイジャー様にて、それ以外の皆様におかれましては、弊社より返金手続きを行います。こちらより、ご連絡くださいますようよろしくお願い申し上げます。弊社では配給会社メッセージとして「MMR ワクチンと

自閉症の因果関係の有無について科学的な証明がなされていないことを承知しておりますし、ワクチン接種に反対ではありません。ワクチン接種の重要性を認識しつつ、上記の理由に加え、本作の以下の点に合理性があると判断し、日本公開を決定しました。

・MMR（新三種混合）ワクチンの安全性について追加調査や研究が必要である。

・安全性が確認されるまで、単独接種を推奨する」

と発信しました。しかし、以下に説明する理由の通り、公開中止の決断を致しました。以下に、理由と、事の経緯をご説明させていただきます。

公開中止の経緯と理由

映画中、アメリカ以外、アジアでも新三種混合（MMR）ワクチンの使用による影響の可能性を連想させる使

い方で、日本でも自閉症と診断される方の数も右肩上がりに増加している様子のグラフが紹介されるシーンがあります。しかし日本では、1993年に事実上、MMR ワクチンは中止されております。にもかかわらず、その後も日本では引続き自閉症が増えているので、この映画が示唆する「MMR ワクチンと自閉症に因果関係が疑われる」可能性はないとする研究がありました。

※映画中、日本のグラフの線の表示は1990年代前半で終わっているためグラフ表示そのものには問題は見られません。

この点についてアンドリュー・ウェイクフィールド監督側に指摘したところ、ウェイクフィールド監督本人が説明する動画が送られてきました。その文章は、監督メッセージのページ下部に掲載しておりますが、要約すると、「日本では1994年

の法改正により、満1歳からはしかと風疹の予防接種が同時に推奨されるようになった。さらにその4週間後から、おたふく風疹ワクチンも任意で接種できた。自閉症が再び増加したのは、はしかと風疹のワクチン接種増加とちょうど比例していた。」との内容でした。

映画は、米国疾病対策センター（CDC）の研究員の内部告発内容をもとに、MMR ワクチンと自閉症との因果関係の有無を問う内容で、安全性が確認されるまでは、それぞれのワクチンの単独接種を勧める内容です。監督からの上記の説明を受け、また、情報源として示されたワクチン接種スケジュール画像を見て、1994年以後も日本でははしかと風疹の2種のワクチン接種が同時に行われていたと理解し、そのような背景があるならば、問題がないだろうと、公開への準備を継続しました。

しかし、MMR ワクチンが中止されているにも関わらずグラフに日本を出すことは適切ではないだろうから、グラフで示す国を変更するか、映画の最後に補足説明を加えることの対応のどちらかを監督側に求めました。そして、メッセージを映画の最後に加えることで、対応が決まりました。以下がそのメッセージです。「アンドリュー・ウェイクフィールド監督日本向けメッセージ

日本ではMMR ワクチンは中止されましたが、1994年の法改正により、日本の赤ちゃんには、生後12ヶ月後からはしかと風疹の予防接種が同時に推奨されるようになりました。MMR 中止後減少した自閉症が再び増加した時期は、はしかと風疹のワクチン接種増加とちょうど比例しています。生ワクチンにさらされるといいう状況は、日本からなくなっていなかったのです。

メッセージ詳細 unitedpeople.jp/vaxxed」 事が動き始めたのは11月1日です。上記動画で使用されていた写真に写り込んでいた方のご関係者から削除を求められました。この動画は監督側が制作したものに日本語字幕を弊社が付けたものでした。写真利用について、著作権上問題がないのか念の為確認しましたが問題ないとの回答だったので公開しました。しかし、ご指摘を受け、写真がそもそも誤った使い方であることに気づき、速やかに本動画を非公開とし、その後削除しました。ご関係者の皆様にはお詫び申し上げます。 また、直接お会いしてお詫びするために、翌11月2日にご関係者とのご面会の機会をいただきました。ウェイクフィールド監督の動画説明に疑念を抱いたのは、この時同席された小児科医の先生より、1994年	当時、はしかと風疹のワクチンは1ヶ月ほど間を空けて打っていたという指摘を受けた時です。事実であれば、ウェイクフィールド監督の説明とは食い違います。その後、多数の文献に目を通し、複数の専門家や厚生労働省を含む機関にヒアリングをした結果知ったことは、1994年以後、2006年の2種混合ワクチンであるMRワクチン定期接種開始以前、はしかと風疹ワクチンの単独接種が少なくとも推奨されていたという事実でした。 例えば厚生労働省ホームページに掲載されている財団法人 予防接種リサーチセンター、予防接種ガイドライン等検討委員会が1994年に作成した「予防接種ガイドライン」には以下の記述がありました。 「第6 予防接種の接種間隔 1 違う種類のワクチンを接種する場合の間隔	あらかじめ混合されていない2種以上のワクチンを接種する場合は、不活化ワクチン及びトキソイド接種の場合は、1週間経てばワクチンによる反応がなくなるため1週間以上をあけて、生ワクチン接種の場合は、ウイルスの干渉を防止するため4週間以上間隔をあけて次のワクチンを接種する。」 「生ワクチン ポリオ、麻しん、風しん、BCG、おたふくかぜ、水痘 ↓ 4週間以上あける 不活化ワクチン 生ワクチン (生ワクチンを接種した日から、次の接種を行う日までの間隔は27日間以上置く。)」 本件を国立感染症研究所感染症疫学センターにも確認したところ、麻しん（はしか）、風しんワクチンは、生ワクチンのため、医師が特に必要
を認めた場合以外は、中27日以上の間隔をあけることは正しいとの回答を得ました。要するに特別な事情がない限り、これらのワクチンは27日以上の間隔を置いて打つことが、上記ガイドラインでは推奨されていましたが、その事実関係が確認されました。実際の現場で、同時接種を選択した医師も存在するとは思いますが、どのような推奨が当時されていたかが問題でした。 監督は生後12ヶ月後からはしかと風疹の予防接種が可能になることと示されたスケジュールを見て、同時接種が推奨されたと誤認されたのかもしれない。いずれにしても、日本では「1994年の法改正により、満1歳からはしかと風疹の予防接種が同時に推奨されるようになった」事実は確認出来ず、むしろ1994年以後は単独接種が推奨されていた事実がある以上、監督の主張は成り立	ちません。このような問題点が判明した以上、本作の劇場公開は適切ではないと判断し、劇場公開を取りやめる決断を致しました。 事実確認が遅かったのではないかと指摘されれば、その通りです。医療の専門家でない立場で、難しい分野の映画を取り扱うにあたり、それなりのリサーチはしておりましたが、足りませんでした。予め本件の事実関係をもっと早く知っていれば、公開直前での中止にはなりませんでした。その点悔やまれますが、弊社として、出来ることは直前とはなりましたが、劇場公開を中止させていただくことでした。 以上が映画『MMR ワクチン告発』の劇場公開を中止させていただく経緯と理由になります。本作の急な公開中止に伴い、関係者の皆様には多大なご迷惑をおかけすることを深くお詫び申し上げます。今後、同じよう	なことが二度と起きないように、公開判断前に十分検証に努めてまいります。 最後に、弊社は本映画の配給そのものから手を引き、速やかに制作元との契約を解除致しますが、本作公開中止になった上記理由を説明する機会を作るためにも、実施を予定していたジャパンプレミア上映会につきましては、劇場公開を前提としたジャパンプレミアではなく、一度限りの上映会として11月12日（月）に実施させていただく考えです。なお、上映会の趣旨が変わりましたので、試写会プレゼント企画につきましては、中止させていただきます。一部直接お声がけしたご招待の皆様を除き、有料チケットの販売のみで実施させていただきます。なお、流動的ではありますが、映画プロデューサーのデル・ビッグツリーさんは予定通り来日し、映画上映後に講演する予定

です。この場で、多くの疑義につきまして、弊社としても問いたいと考えております。以上、上記上映会を実施することについてご理解賜りますと幸いです。 2018年11月7日（水） ユニテッドピープル株式会社 代表取締役 関根健次 【続報】デル・ビッグツリーさん側より連絡が昨晚（11月8日夜）入り、来日をキャンセルすると通知がありました。今の所こちらが示した監督見解への疑念点、矛盾について回答はありません。映画『MMR ワクチン告発』上映会（11/12 東京）は、公開中止理由をご説明する責務を果たすためにも、実施させていただきま 【続報2】未だ、疑義に対する回答が得られておりませんが、本日2018年11月14日、権利元に対し、日本における配給契約解除を11月	30日に行う旨を書面で通知しました。2週間ほどの猶予期間を設けているのは、すでに拡散されている日本語版予告編の削除対応のためとなります。つきましては、弊社ユニテッドピープル株式会社は本年11月30日を持ちまして、完全に本作から撤退することをご報告申し上げます。 【続報3】劇場公開を予定していたシアター・イメージフォーラムでは、1日4回上映を4週間確保して頂いておりました。予定に穴をあけてしまう結果となり、配給会社として出来ることは新作を何とかお届けすることでした。急ピッチに新作『最後の楽園 コスタリカ ～オサ半島の守り人～』の公開準備を整え、11月24日（土）劇場公開の運びとなりました。ぜひ劇場にてご覧いただけたら幸いです。（2018年11月15日）	【声明】 障害のある人が働くことを支える仕組みを抜本的に見直す機会に ～国の行政機関における障害者雇用に係る事案に関する検証委員会報告書を受けて～ 2018年10月24日 きょうされん常任理事会 障害者雇用の水増し（偽装）を受け、10月22日に国の行政機関における障害者雇用に係る事案に関する検証委員会（以下、委員会）が報告書を発表した。同日、公務部門における障害者雇用に関する基本方針（案）（10月23日に決定、以下、基本方針）も公表された。 それによると、死亡した人や退職者を算定する、うつ状態や不安障害を身体障害者として算定する等、常
識では考えられない手法がとられていたという。国の行政機関によるこうした常軌を逸した法令違反に、改めて強く抗議する。 こうした事態を解消するには徹底検証が不可欠だが、報告書はその水準とは程遠い。更に検証すべき点や今後のとりくみ等について、当会の見解を述べる。 ① 検証から見直しに到る一連の過程が拙速であること 委員会の報告書とこれを踏まえた基本方針が同時に公表されたわけだが、これでは検証自体が結論ありきだったのではないかと疑わざるを得ない。 加えて長年の水増し（偽装）を徹底検証するには、2ヵ月という委員会の期間は余りに短く、実際に過去に遡っての精緻な検証にはなっていない。報告書では「対象障害者とし	て計上される根拠となった確認資料は引継がれないまま、その名簿のみが引き継がれ」といった実務慣行の弊害を指摘するにとどまり、実際の確認方法は不明のまま。関係資料を全面開示するとともに過去の担当者等からも聞き取る等、本件の経緯を明らかにするために、再検証を行なうべきだ。 また基本方針では2019年末までに雇用率を達成するとあるが、非常勤雇用でお茶を濁すことにはならないだろうか。短期間の大量採用で職場に大きな負荷がかかり、その弊害が障害のある人に向かうことも危惧される。障害のある人が働くための合理的配慮等の措置を講じることや、職員への障害に関する啓発等がなければ、新たな数合わせに終始するのは必至だ。今求められるのは拙速な障害者雇用の拡大ではなく、一定の年限の下で合理的配慮の提供や	職場の環境整備等を進めるための、予算確保の見通しを伴った行程表を策定し、障害のある人の労働及び雇用政策の基礎を打ち固めることである。 ② 障害者雇用の水増し（偽装）の背景を直視していないこと 今般の水増し（偽装）の背景には、「障害のある人は手がかかる」「障害のある人を任用すると人手もお金も余計にかかる」といった偏見や無理解がある。こうした根深く古い意識が社会的障壁となって、水増し（偽装）という形で障害のある人を排除し続けてきたのだ。 委員会はいずれの行政機関も意図的に不適切な対応をした例は把握していないとしているが、意図的だったかどうかを調査しないまま、今回の事案は悪質な虚偽行為ではなく不適切な計上だったとしている。2014

年に独立行政法人労働者健康福祉機構で同様の事案が発覚した際には、虚偽報告として関係者が罰金の略式命令を受けているが、4年前も今回も、障害のある人に起きた出来事は、働く機会を奪われ、尊厳を傷つけられたという結果においてはまったく変わらない。「意図的ではなかった」と繰り返す各省庁にはこの結果の重大性への認識が欠落しており、その背景に、根深く古い偏見や無理解があることを直視し対策を講じるべきだが、報告書にはこうした観点の検証は見当たらない。

③ 障害者権利条約等の実現と当事者参加の実質化を

今回の事態により障害者雇用促進法が施行された1960年以来、障害者雇用に係る基礎データが誤っていたことになる。これを機に、障害のある人の範囲や雇用率におけるダブ

ルカウント、特例子会社のあり方等かねてから指摘されている課題を正確なデータに基づいて検証する必要がある。さらに、行政機関への納付金に類する仕組みや任用状況の監視システム等の導入等、再発防止策も速やかに講じるべきだ。

こうした見直しの指標となるのが障害者権利条約やILO159号条約等の国際規範だが、報告書にはこれらへの言及は一切ない。障害のある人もない人も分け隔てなく共に生きる社会をめざす障害者権利条約の観点等を実現する立場で、障害のある人が働くことを支える仕組みを見直す機会とすべきだ。

また、同条約では政策決定過程への当事者参加が強調されているが、障害のある人は委員会に含まれず、基本方針の策定にも参加していない。障害団体からヒアリングをしたから、あるいは労働政策審議会障害

者雇用部会でも審議したから良しとするのではなく、委員会を始め関連するあらゆる会議体に委員として障害のある人が実質的に参加することが求められる。

以上が当会の見解である。10月24日（水）から始まる臨時国会でこの問題が深められることを期待するとともに、そのために当会としても関係団体と連携しながら力を尽くす所存である。



中日新聞

岐阜発

発達障害児、連携しケア 岐大医学、教育学部が初の合同授業

発達障害の子どもを育てる母親（手前）から体験談を聞く学生たち＝岐阜市の岐阜大で

発達障害と診断される子どもが増える中、岐阜大（岐阜市）が医学部と教育学部の垣根を越えて、障害について学ぶ合同授業を初めて開いた。卒業後に医師や保健師、教員として障害児に関わる学生たちが、早いうちから互いの専門分野への理解を深め、適切なケアにつなげるのが狙いだ。

十二日、医学部の教室で両部の約四十人が八グループに分かれて机を囲んだ。初めて医学部に足を踏み入れる教育学部の学生も。九月から事前にインターネットを介して自己紹介し、ある子どもを一例に発達障害

の診断方法や教育の課題について意見交換。この日初めて顔を合わせた。

授業には障害児を抱える保護者八人を招き、日ごろの生活状況や困り事などの説明を受けた。

あるグループが聞き取ったのは、いずれも自閉症スペクトラム障害（ASD）がある小学生の兄と、児童発達支援センターに通う弟を育てる母親のケースだ。

弟が一歳半健診を受けた際、保健師に「様子見でいい」と言われたという。その後、医師の診断が下ったが、母親は障害が見過ごされかねなかったと指摘。「診断がついたのはショックだったが、障害を早く見つけて周りに相談するのが大切。教育現場にも知識や経験がある先生がいてくれると助かる」と訴えた。

これを聞き、医学部五年の小木曾衛さん（23）は「教育や福祉サービスの実情を知らなかったので勉強

になった」。教育学部四年の斎藤佑奈さん（22）も「教員は既に診断された子どもが相手なので、その前の段階の医師や保健師の役割をもっと知りたい」と話した。

学部間の調整をして授業を企画した医学教育開発研究センターの川上ちひろ講師は「切れ目のない支援を提供するには、多職種の連携が不可欠。学生には専門分野以外の気づきがあったのではないかと期待した。

（近藤統義）2018年10月17日



2018/10/31

世界自閉症啓発デー2019 作品展募集要項

世界自閉症啓発デー2019日本実行委員会

会場委員 陳野 功

1 世界自閉症啓発デー2019作品展募集について

世界自閉症啓発デー日本実行委員会では、毎年4月の世界自閉症啓発デーや発達障害啓発週間に、国民の皆様に正しい理解を深めていただくために、自閉症や発達障害の方の作成した絵画等の作品展（東京タワーにおけるライト・イット・アップ・ブルーの会場、世界自閉症啓発デー・日本シンポジウムの会場において展示）、公式ウェブサイトへの掲載等を実施しております。

ついては、例年通り、2019年4月に向けた作品の募集を行うこととしましたので、ご協力をお願いします。

2 募集概要

（1）応募作品は、自閉症をはじめとする発達障害の方の作品として下さい。

（2）応募作品の提出期限は平成31年1月21日（月）、送付先等は、下記の通りです。

送付先：〒104-0044 東京都中央区明石町6-22 築地ニッコンビル6F

日本自閉症協会 事務局 陳野 功 宛

お問い合わせ：tel 03-3545-3380 mail asj@autism.or.jp

（3）作品は、絵画、版画、切り絵、陶芸、工作等、形式は問いませんが、実物ではなく写真データをCD-Rに保存して送付して下さい。送付の際は、住所、氏名、電話番号と作品タイトル、作者名を添付して下さい。

* カメラの画素数は800万画素以上、設定を最高の記録画素数、画像圧縮率として下さい。

（画素数）「14M」「10M」「5M」「3M」「2M」「1024」「640」→「14M」、「L」「M」「S」→「L」

（画像圧縮率）「★★★」「★★」「★」の3種類→「★★★」、「FINE」「NORMAL」「BASIC」の3種類→「FINE」

* 平面作品はゆがまないように、立体作品は特徴がよくわかるように撮影してください。

* 保存のファイル形式はJPEG（推奨）、BMP、PNG等として下さい。PDFは不可とします。

（4）応募された作品データの著作権は主催者側に帰属し、写真パネルに加工してシンポジウム会場等への展示、公式サイトへの掲載などに使用します。また、「世界自閉症啓発デー2019」等の文字挿入等の補作等、ポスターやリーフレットへの転載をする場合があります。

* 写真パネルやウェブページの色調は、印刷等の関係で実物と異なる場合があります。

（5）応募作品は、日本自閉症協会に取りまとめ、既定の数に沿って選んだ上で、実行委員会に提出します。そのため、必ずしも展示・掲載できるとは限りませんので予めご了承ください。

（6）応募作品データは返却しません。

以上

2018年11月14日

50周年記念誌（特別版）の発送について

○発送は1月中旬から順次行います。

○【会員様への発送】

無料配布になります。

いとしご発送用の名簿データを元に業者に発送の委託をします。

会員様の情報に変更がある際は、**12月5日(水)まで**に名簿修正のご連絡を御願い致します。

○【加盟団体様への発送】

1部400円でお買い上げ頂く形になります。

ご希望される際は、**12月6日(木)まで**に下記に記載の上ご提出ください。

※お買い上げ頂いた冊子を関係団体等に配布される際は、事前にお送り先のデータを頂ければ当協会にて発送します。（郵送料は日本自閉症協会負担）

なお、発送元は「日本自閉症協会」となりますのでご了承ください。

お買い上げ分の発送先が複数箇所になる際は、備考欄にて発送数の内訳と各発送先をご連絡ください。

※申込期限後の注文は、加盟団体価格1600円、一般価格2000円になりますのでご注意ください。

年 月 日

[加盟団体名] _____

[担当者名] _____

[連絡先] _____

[お買い上げ数] _____冊（※1部400円）

[希望発送先] 〒 _____

※お買い上げ分から関係団体等への発送を希望される際は、備考欄に発送内訳を記載の上、**12月6日まで**にエクセルデータにて発送先をご連絡ください。

<備考>

<申込先>

日本自閉症協会（陳野）まで（Fax：03-3545-3381）か（Mail：asj@autism.or.jp）にてご連絡ください。

発刊にあたって

一般社団法人日本自閉症協会は、本年創立50周年を迎えます。

これもひとえに、当協会の活動を支えていただいた会員および関係者など多くの皆様のご支援、ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

日本自閉症協会は、1968年（昭和43年）に、当時各地に設立されていた親の会9団体が集まり、自閉症児者親の会全国協議会として、第1回全国大会を開催したところから、その歴史が始まります。そして、1998年（平成元年）に社団法人日本自閉症協会として法人認可を受け、専門家、支援者を含めた組織となりました。その後2014年（平成26年）一般社団法人へと移行しました。現在、全国47都道府県および3政令指定都市にある自閉症協会等、51団体が会員となっています。（加盟団体含めた会員数は13,000（団体会員含む））

創立当時、親の育て方や環境が問題にされ、教育、医療、福祉においても、また行政においても自閉症についての認識が十分ではありませんでした。「どこにも我が子の居場所がない。それでも自分たち親子はこの国の国民だろうか」との思いを抱えた自閉症児の親のたちが集まり、どんなに重い障害であっても子どもたちが受け容れられる住みやすい社会を目指して活動をはじめました。そうした全国の親たちの思いが、日本自閉症協会の礎を築いてきたといえます。そして、その目指すところはそのまま現在にも引き継がれています。

このたび、創立50周年を記念し、「自閉症—過去・現在・未来—」として、創立期からの歩みを振り返り、そして未来を見据えて協会の役割を明確にし、未来へとつなぐために本誌を発行することといたしました。親の会設立メンバーへのインタビュー、医療、教育、福祉そして当事者による座談会、加盟団体からのメッセージ、各事業の紹介及び司法の面から「自閉症」と裁判についてなど、多面的な構成となっています。ご一読いただき、自閉症の理解の一助となれば幸いです。

一般社団法人日本自閉症協会
会長 市川 宏伸

自閉症 ～現在・過去・未来～

目 次

発刊にあたって	
序	6
座談会1 医学の面からみた自閉症 ～現在・過去・未来～	15
司法：自閉症と裁判	36
座談会2 学校教育と自閉症を考える	45
インタビュー：親の会設立に関わって ～変わらぬ我が子への思い～	70
座談会3 福祉サービスの50年を振り返る ～豊かに暮らしていくために～	75
日本自閉症協会の事業	95
相談事業	96
ASJ保険事業	109
実施事業	115
座談会4 今を、未来を、どう生きるか ～当事者からの発信～	119
加盟団体からのメッセージ	137
資 料	165
年表	166
機関誌、機関紙 50年～協会の広報～	196
役員一覧	235
あとがきにかえて	

<平成30年度文部科学省委託事業・啓発会議>

第41回全国特別支援教育振興協議会

【主題】 学校教育におけるインクルーシブ教育システムの充実に向けて

主催 全国特別支援教育推進連盟
文部科学省
独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

*日時 平成30年12月7日（金） 9時45分～16時

*会場 独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 国際会議室

【最寄り駅：小田急線（参宮橋駅）、地下鉄千代田線（代々木公園駅）、京王バス（代々木五丁目）】

*後援 全国都道府県教育委員会連合会、東京都教育委員会、全国社会福祉協議会、全国公立幼稚園・こども園長会、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国高等学校長協会

9:20 受付開始

9:45 開会

主催者挨拶 全国特別支援教育推進連盟理事長 宮崎 英憲
文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 中村 信一
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所理事長 矢戸 和成
10:00 行政説明 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 中村 信一
厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課
障害児・発達障害者支援室室長補佐 齋藤 晴美

11:15 1部 「共生社会の実現に向けたPTAや地域の役割」

① NPO 法人調布心身障害児・者親の会会長 進藤 美左
② 埼玉県東松山市高坂丘陵市民活動センター所長
淑徳大学特任教授、前東松山市立野元小学校校長 鈴木 克俊
③ 全国特別支援学校知的障害教育校 PTA 連合会会長 木村 加代子
東京都立武蔵台学園PTA顧問 伊東 牧恵

指導助言 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官
司会 全国特別支援学級設置学校長協会

< 12:30～13:30 休憩 >

13:30 事業説明 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
インクルーシブ教育システム推進センター長 星 祐子

13:55 2部「学校教育における合理的配慮について 実践事例報告 シンポジウム」

① 神奈川県横浜市立仏向小学校教諭 岡田 克己
② 千葉県大網白里市立大網中学校教諭 行木 陽子
③ 東京都立大塚ろう学校校長 朝日 滋也

コーディネーター 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官
司会 全国特別支援学校長会

15:55 閉会挨拶 全国特別支援教育推進連盟副理事長 岩井 雄一

16:00 閉会

※ 参加費無料。 午前または午後の方の参加も可です。 会場での飲食可です。

※対 象 本連盟加盟団体構成員、教育・労働・福祉関係職員、幼稚園・こども園・小学校・

中学校・高等学校・特別支援学校・障害福祉施設等の保護者等、学生、その他

※定 員 午前、午後 各200名程度

※申し込み 下記申込書に必要事項を記入の上、メールまたはFAXで申し込んでください。

※申し込み先 加盟団体の各事務局または全国特別支援教育推進連盟（メールまたはFAX）

※問い合わせ先 東京都港区芝大門1-10-1 全国たばこビル6階 電話
03-3433-7717

人事院、国家公務員初の障害者選考試験 2月3日

2018.10.24 17:48 産経新聞 web ニュース

中央省庁の障害者雇用水増し問題で、人事院は24日、障害者を国家公務員の常勤職員として採用する統一選考試験を平成31年2月3日に実施すると発表した。障害者限定の公務員採用試験は自治体では例があるが、国は初。これまでの試験は健常者との区別がなく、受けるのをためらう人もいたことから、受験者を掘り起こして法定雇用率達成につなげる狙いがある。

政府は31年末までに4千人超の障害者を雇用する計画。人事院は2回目以降の統一試験について「各省庁の採用状況などを踏まえて検討したい」としている。

障害を示す手帳や診断書を所持し、昭和34年4月2日以降に生まれた人が対象。申し込みは12月3～14日まで郵送で受け付け。会場は札幌や東京、大阪など9都市を予定している。来年2月22日に通過者を発表。各省庁が同27日～3月13日に面接し、3月22日に最終的合格者を発表する。

訃報

NPO 法人奈良県自閉症協会の会員で、副理事長としてまた長く会計を担当してくださっていた石川巖さんがお亡くなりになりました。2018年11月8日午後6時からはお通夜、11月9日12時から告別式が奈良県北葛城郡上牧町にある西和エトワホールで行われました。

石川さんのご冥福をお祈りいたします。

奈良県自閉症協会へのこれまでの貢献、本当にありがとうございました。会員一同心から感謝します。

（奈良県自閉症協会理事長 河村舟二）

平成30年12月7日（金）

第41回全国特別支援教育振興協議会

申込書

全国特別支援教育推進連盟事務局宛（11月30日（金）まで）

各加盟団体の事務局宛（11月9日（金）まで）

※加盟団体に所属されていない方、

あるいは加盟団体事務局が不明の場合は、

直接、全国特別支援教育推進連盟へ

申し込んでください。

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

国際交流棟 国際会議室

【午前の部】 9時45分～12時30分

【午後の部】 13時30分～16時

【午前、午後、全日は、該当箇所に○を付してください。】

	氏 名	所 属 【 職 名 】 （ 連絡先 ）	午 前	午 後	全 日
1		【 】 ()			
2		【 】 ()			
3		【 】 ()			
4		【 】 ()			
5		【 】 ()			

★ 申し込み先 （全国特別支援教育推進連盟に直接、申し込む場合）

FAX：03-3433-7717

E-mail：suishinrenmei3ooiinobuo@gmail.com

第24回

People First Convention in Nara

ピープルファースト大会 in 奈良

テーマ
●なかまと共に 差別・虐待のない
平和な社会をつくろう
●言いたいことを言いあおう

12月1日 土

全体会会場
交流会会場

12月2日 日

分科会会場

閉会式会場

助成：キリン福祉財団 後援：奈良県 奈良市

主催 ピープルファースト大会全国実行委員会

住所 〒636-0213 奈良県磯城郡三宅町伴堂850 ひまわりの家 内
電話 0745-42-2919



きょうだいの私、結婚どうする？

～リアルに語る結婚観～

家族にケアを必要とする人がいると、

自分の結婚について悩んでしまうことはありませんか？

- ☒ 結婚できるのかな
- ☒ 結婚していいのかな？
- ☒ 別にしなくてもいいや
- ☒ 相手に理解してもらえるかな
- ☒ 諦めた方がいいかな



太田宏介作

障害や慢性疾患や難病などのある人の兄弟姉妹のことを
平仮名で「きょうだい」といいます。

そんなきょうだいの心配事を解消する既婚者のきょうだい3名が登壇し、それぞれの
結婚観を語ります。きょうだいから寄せられた質問に答えるパネルディスカッション
や参加者との交流も行います。

障がい等のある方のきょうだい、子ども、ご家族、ヤングケアラー、ケアラー、支援者の方
など、関心のある方は、どなたでもご参加ください。年齢制限はありません。

開催日：平成30年11月10日（土）

14時～16時30分（受付開始13時30分）

会場：NATULUCK 飯田橋東口 駅前店 4階大会議室A

東京都千代田区飯田橋4-8-6 日産ビル

JR飯田橋駅徒歩2分・地下鉄飯田橋A4出口徒歩1分

参加費：1,500円

募集人数：80～100名



藤木和子



太田信介



持田恭子

登壇者：・藤木和子（法律事務所シブリング 代表弁護士。聴覚障害のある弟。）

・太田信介（絵届け問屋「kousuke」代表。自閉症の弟。）

申し込みはこちらから

・持田恭子（ケアラーアクションネットワーク代表・ダウン症の兄。）

司会：山下のぞみ（ファーストペンギン代表）



【お問合せ先：mukazuko55@gmail.com】

<https://20181110siblingevent.peatix.com>

主催：ファーストペンギン 共催：ケアラーアクションネットワーク協力：ぜんち共済株式会社

各障害者団体代表者 殿

「就労に必要な移動等に困難がある障害者の実状に関するアンケート調査」
へのご協力をお願い

拝啓

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、私ども独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構障害者職業総合センター研究部門では、自力での通勤のための移動や、移動についての介助なしでの就労に困難を抱える障害者の方について、就労の状況や、就労に関連する移動手段等の生活状況についての調査を計画し、その業務の一部を(株)NTTデータだいちに委託して実施することになりました。

このたびはその一環として、障害のある方を対象としたアンケート調査を実施いたします。

本アンケート調査を含む研究の結果は、報告書に取りまとめて公表し、障害者の雇用の促進に役立ててまいりたいと考えております。また、本アンケート調査により得られた情報は、関係法令及び当機構の規程に基づき厳重に管理し、研究以外の目的には利用せず、個人又は団体を特定する情報が外部に漏れることはありません。

つきましては、ご多忙中誠に恐縮ですが、貴団体会員の方へ、同封の文書により、本アンケート調査を周知していただきますようお願い申し上げます。

敬具

平成30年10月

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター研究主幹

木原 亜紀生



障害者職業総合センターURL <http://www.nivr.jeed.or.jp/>

当者あてお問い合わせください。

ご多忙のところお手数をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

○ 本アンケート調査の対象者

障害のある方。障害の種類・程度は問いません。障害者手帳の有無にもかかわりません。

企業等に雇用されて働くことについて、または自営業（請負、フリーランスを含みます。）で働くことについて、次のいずれかに当てはまる方が対象です。

- ① 現に働いている（福祉的就労は含みません）。
- ② 現在働き先（福祉的就労は含みません）を探している。
- ③ 今後働くこと（福祉的就労は含みません）を希望している。

○ ご回答者のご意思の尊重、個人情報の保護等

- ・ アンケートは匿名です。また、質問の中に答えたくない内容のものがございましたら、その間は無回答（空欄）にさせていただくことができます。
- ・ ご協力いただいた皆様からお寄せいただいた回答の内容、メールアドレス、住所、氏名等の情報は、関係法令、当機構の規程及び(株)NTTデータだいちとの契約に基づいて厳重に管理するとともに、研究以外の目的には利用せず、個人が特定できる情報が外部に漏れることはありません。

<研究担当者（問合せ先）>

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構

障害者職業総合センター 事業主支援部門

浅賀 英彦

電話： 043-297-9035（直通）

E-mail： Asaka.Hidehiko@jeed.or.jp

当者あてお問い合わせください。

ご多忙のところお手数をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

○ 本アンケート調査の対象者

障害のある方。障害の種類・程度は問いません。障害者手帳の有無にもかかわりません。

企業等に雇用されて働くことについて、または自営業（請負、フリーランスを含みます。）で働くことについて、次のいずれかに当てはまる方が対象です。

- ① 現に働いている（福祉的就労は含みません）。
- ② 現在働き先（福祉的就労は含みません）を探している。
- ③ 今後働くこと（福祉的就労は含みません）を希望している。

○ ご回答者のご意思の尊重、個人情報の保護等

- ・ アンケートは匿名です。また、質問の中に答えたくない内容のものがございましたら、その問は無回答（空欄）にさせていただくことができます。
- ・ ご協力いただいた皆様からお寄せいただいた回答の内容、メールアドレス、住所、氏名等の情報は、関係法令、当機構の規程及び(株)NTTデータだいちとの契約に基づいて厳重に管理するとともに、研究以外の目的には利用せず、個人が特定できる情報が外部に漏れることはありません。

<研究担当者（問合せ先）>

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構

障害者職業総合センター 事業主支援部門

浅賀 英彦

電話： 043-297-9035（直通）

E-mail： Asaka.Hidehiko@jeed.or.jp

奈良YMCA



—第25回 奈良 YMCA 発達障がい理解講座—発達障がい児・者への関わり方—

子どもたちとどのように関わっていくか

奈良YMCAでは1997年から『奈良 YMCA 発達障がい理解講座』を毎年開催しております。本年度は、子どもたちとの具体的な関わり方について、奈良 YMCA のスーパーバイザーをお願いしています竹田契一先生(大阪教育大学名誉教授・大阪医科大学 LD センター顧問)、及び長年にわたって様々な教育現場で子どもたちを導かれてこられた米田和子先生(NPO法人ラヴィータ研究所理事長・特別支援教育士SV)にお越しいただき、お話を伺う予定です。

午前中は竹田契一先生に『思春期発達障がいへの教育的支援』というテーマで2次障害に陥りやすい思春期での支援の方法についてのお話をして頂きます。午後からは米田和子先生から『発達に凹凸のある子どもたちに寄り添う支援—ペアレントトレーニング・ティーチャートレーニングからのアプローチ』というテーマで保護者や指導者がどのように子どもたちに関わればよいのかについてお話を伺います。多くの方々のご来場をお待ちしております。

◆日時 2019年2月17日(日) 10:00~16:00 開場9:30

◆会場 東大寺総合文化センター・金鐘会館小ホール(B1F)

近鉄奈良駅から市内循環バス「大仏殿・春日大社前」下車北へ徒歩3分または

近鉄奈良駅から東へ徒歩20分(地図は裏面をご参照ください。)

* 東大寺総合文化センター施設内には駐車場はございません、公共交通機関をご利用ください。

お車でお越しの方は県営登大路駐車場等の近辺の駐車場をご利用ください。

《 プ ロ グ ラ ム 》

9:30 開 場

10:00~12:30 『思春期発達障がいへの教育的支援』

竹田契一先生(大阪教育大学名誉教授・大阪医科大学LDセンター顧問)

13:30~16:00 『発達に凹凸のある子どもたちに寄り添う支援—ペアレントトレーニング・ティーチャートレーニングからのアプローチ』

米田和子先生(NPO法人ラヴィータ研究所理事長・特別支援教育士SV)

☆この講座は、特別支援教育士更新ポイント対象講習会(2ポイント取得)です。

◆定 員 先着120名(託児はありません。)

◆参加費 ￥2,000(消費税8%込み) * 午前の部又は、午後の部だけの参加の場合も同額です。

◆申込方法 裏面の参加申込書に記入いただき、2月8日までにFAXまたはEメールにてお申込みください。

参加費はお申込み後10日以内に下記までお振込みください。

尚、講演当日の受付でのお支払はお取り扱いできません。

お振込先⇒

南都銀行 西大寺支店
普通口座: 0057049
公益財団法人 奈良YMCA

◆お申込み後のキャンセルは2月15日(金)までにお申し出ください。振り込み手数料を差し引き口座振り込みでご返金致します。前日および当日のキャンセルの場合、参加費のご返金はできませんのでご了承ください。

主 催: 公益財団法人 奈良YMCA

後 援: 一般社団法人 日本LD学会 奈良市 奈良市教育委員会

奈良県発達障害者支援センター・でいあ〜

《お申し込み・お問い合わせ》

奈良YMCA国際・生涯学習事業部「らばーる」

TEL: 0742-44-2291

FAX: 0742-46-7563

E-mail: nrbunkyo@naraymca.org

URL: <http://www.naraymca.or.jp/>

第25回 発達障がい理解講座参加申込書

お名前（ふりがな） _____

お仕事（学校名など） _____

TEL _____ FAX _____

ご住所 _____

複数でお申込みの場合は、下記に全員のご氏名とふりがな、上記に代表の方のTEL及びFAX番号をご記入ください。

お名前（ふりがな） _____

お名前（ふりがな） _____

お名前（ふりがな） _____

お名前（ふりがな） _____

特別支援教育士・特別支援教育士SV更新ポイントを申請される方へ

▼ 下記の□に✓を入れ、S,E,N,S 登録番号をご記入ください。

☐ 更新ポイントを申し込みます。

S,E,N,S 登録番号 S,E,N,S ・S,E,N,S SV(_____)

◆この更新ポイント申請は特別支援教育士及び特別支援教育士SVの有資格者対象です。

◆遅刻・早退の場合は、修了証をお渡し出来ませんので、ご注意ください。

◆当日、特別支援教育士IDカードをお持ちください

※ FAX 送信先：0 7 4 2 － 4 6 － 7 5 6 3

※ E-メール：nrbunkyo@naraymca.org

交通アクセス 近鉄奈良駅から市内循環バス「大仏殿・春日大社前」下車徒歩3分
または近鉄奈良駅から東へ徒歩20分 東大寺南大門北

東大寺総合文化センター アクセス地図





発行人：関西障害者定期刊行物協会

住 所：〒543-0015

大阪市天王寺区真田山2-2 東興ビル4F

編集人：奈良県自閉症協会

定 価：100円